

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2375300213
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会
事業所名	グループホーム 扶桑苑
訪問調査日	平成20年9月29日
評価確定日	平成20年11月2日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2375300213
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会
事業所名	グループホーム 扶桑苑
所在地	丹羽郡扶桑町大字山那字番所下83-5 (電話) 0587-92-1600

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成20年11月2日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		860 円	

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	75 歳	最高	97 歳
協力医療機関名	医療法人医仁会 さくら病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは木曾川に近く緑豊かで虫や小鳥の音が聞こえる自然環境のもとに立地し、敷地内に特別養護老人ホームやデイサービスセンター、ショートステイが併設されている。時にはデイサービスへの参加、夏祭りで雑巾、たわし、庭で育てたハーブの店の出店、緊急時の協力体制、職員の協働など複合施設であることからサービスの垣根を越えたつながりを得られ、家族の安心やふれあい、楽しみにつながっている。職員は日常「入居者が楽しく各々のペースで過ごせる」よう目配り、気配り、見守りに心がけ穏やかにゆとりをもって接し、分からないことは「問いかけ」の言葉かけでなるべく本人に訴え考えてもらえるよう支援している。感謝の気持ちやスキンシップを大切にし、家族へも入居者の喜びの姿を伝えて信頼関係を築いている。ホーム内には手作りの作品や季節の花が生けられ、入居者の笑顔とともに家庭的な雰囲気を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は今年度の事業計画に反映している。理念について話し合い、法人の理念が地域密着型介護の果たすべき役割を反映しているため変更していない。また、入居者の思いや職員のスローガンとともに「地域の中で自分らしさを大切に仲良く笑って共に助け合って暮らしましょう」と掲げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んだ。項目数が多く、初めての職員は分からない点もあったが日常業務内容を分かる範囲で気兼ねせず率直に記入し、管理者がまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	扶桑町役場職員、地域包括支援センター職員、社会福祉法人理事長、地区区長、家族代表、職員2名が参加して3カ月に1回開催している。外部評価受審後は評価結果や課題を報告している。毎回ホームの現状報告や何か議題を立てて話し合っており、7月の時にはホーム内の見学をして様子を見てもらった。地区区長からの発案で地区の歩こう会に参加した。今後も助言を活かされるよう取り組みたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会など家族同士の交流の場は特に設けていない。意見箱も設置してあるが利用はない。家族は訪問時に直接職員と話しをしており、管理者も話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満を聞くようにしている。アンケート結果からも家族は何かあれば都度相談でき、解決の方向に向かって支援されていることがうかがえる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、広報紙などの回覧物は直接区長が届けてくださる。民家より離れた立地なので日曜日毎に開催される地域の朝市に出かけ、挨拶をして交流の機会をつくっている。毎年恒例の町内の作品展に出品したり、初めて地区の行事に参加して地域の方々の温かさに参加者はとても感動した。専門学校の実習生や学生の体験学習の受け入れをしている。ヤクルトの訪問販売員の定期的立ち寄りが入居者の楽しみになっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「楽しく共に助け合いましょう、その人らしさやペースに合わせて穏やかに暮らしましょう、その人の力を発揮できるよう支援しましょう」である。また、「地域の中で自分らしさを大切に、仲良く、笑って、共に助け合って暮らしましょう」という言葉とともに入居者の思いや職員のスローガンが掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されている。職員には会議などで「主役ではなく、陰から支える黒子役で」と意識づけを図っている。運営推進会議の場や、家族へは契約の際に説明している。日々の介護で悩んだり考える時に目安となるのは理念と話している。法人の理念「出会い、ふれあいの輪」は地域介護、社会福祉の拠点となることを目指しており、更に地域との連携を進めていきたいと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、広報紙などの回覧物は直接区長が届けてくださる。民家より離れた立地なので日曜日毎に開催される地域の朝市に出かけ、挨拶をして交流の機会をつくっている。毎年恒例の町内の作品展に出品したり、初めて地区の行事に参加して地域の方々の温かさに参加者はとても感動した。専門学校の実習生や学生の体験学習の受け入れをしている。ヤクルトの訪問販売員の定期的立ち寄りが入居者の楽しみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員へは「監査ではない。業務チェックとして活用してほしい」と評価の意義を伝え、職員全員で自己評価に取り組んだ。初めての職員には分からない項目もあり難しかったが、ざっくばらんに記入してもらった。管理者は今後の職員とのコミュニケーションの参考になり、職員は心地良い緊張感と捉え自己成長に結び付けている。評価の課題は年間の事業計画に反映している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>扶桑町役場職員、地域包括支援センター職員、社会福祉法人理事長、地区区長、家族代表、職員2名が参加して3カ月に1回開催している。外部評価受審後は評価結果や課題を報告している。毎回ホームの現状報告や何か議題を立てて話し合っており、7月の時にはホーム内の見学をして様子を見てもらった。地区区長からの発案で地区の歩こう会に参加した。今後も助言を活かしきれるよう取り組みたいと考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>扶桑町の窓口へは待機者状況や事故報告書の提出などで訪問し、時には電話にて連携を図っている。管理者は福祉運営推進委員会や社会福祉協議会の委員に任命されており、運営推進会議以外にも意見交換や情報交換を行なっている。今後、事業を行なっていくうえで生じる運営やサービスの課題には自身の町だけでなく近隣の市町村とも連携を図りながら解決していきたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員は家族の面会時に口頭でホームでの暮らしぶり、健康状態を伝え、また、長期の様子は介護計画の更新時期に随時報告している。状態に変化があれば速やかに連絡を取り、信頼関係を築いている。毎月季節により題名の付いたグループホーム新聞には、担当職員が入居者毎の様子やコメントを書き、行事予定や写真を付けて請求書とともに家族に送付している。金銭面の報告は3カ月毎に家族へ郵送し、一定額以下になると訪問時に補充してもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会など家族同士の交流の場は特に設けていない。意見箱も設置してあるが利用はない。家族は訪問時に直接職員と話しをしており、管理者も話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満を聞くようにしている。アンケート結果からも家族は何かあれば都度相談でき、解決の方向に向かって支援されていることがうかがえる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者はホームが職員相互が認め合えるような場となるよう努力しており、離職を最小限に抑え馴染みの関係づくりの存続を目指している。職員の異動に関して入居者への伝達は聞かれれば伝え不安やダメージを与えないよう配慮している。受け入れの際には自己紹介を行ない、まず知ってもらうことにより信頼関係を築くようにしている。本人の希望による法人内異動には応じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は案内を掲示し、希望に添い交代で参加できるようにしている。参加者は資料を持ち帰り、月1回の会議や年に4回開催の全体会議で報告している。新人には2週間ほど実地研修を行なっている。今年度は法人内で認知症の研修講師資格を持つ職員による認知症の勉強会を開催している。ホーム内でも会議の際に勉強会を開催しており、管理者は介護知識に囚われず様々な知識を職員に吸収してほしいと考えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加入しているが、研修にはあまり参加できていない。地域包括支援センターにより町内のネットワークが開催されているが、日程が合わず参加、交流、情報交換には至っていない。今後、管理者や職員がネットワークの利用、町内にある他のグループホームとの交流、情報交換を通じてサービスの質の向上を図っていきたいと考えている。		町内のネットワークを利用して交流、情報交換、あるいは相互訪問などの活動を通じてサービスの質の向上を図られることを期待したい。
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居に至るまでの間に在宅の方などは1週間ほどホームへ来てもらい、入居者と過ごし、少しでも場の雰囲気を感じてもらえるようにお試し入居を実施する場合もある。また、職員が本人の状態を知る機会にもなっている。面談時には本人や家族の困っていること、不安に思うこと、実情や要望などをしっかりと聞き、できる限り要望に添った対応、信頼関係を築くことができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活活動全般（掃除、料理、洗濯など）や行事、外出を通じて喜怒哀楽を共にし、介護される一方で、共に暮らす共生者として人格を尊重したサービスに心がけ、誰かの役に立っていると実感できる関係づくりに努めている。常に「ありがとう」と感謝の気持ちを忘れず、可能なことは見守りのもと試しにやってみるなど日々の関わりの中で過去の経験、得意分野を活かす工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族との面談時の聞き取りや入居後の関わりを通じて生活歴、生活スタイル、希望や意向などの把握をしている。把握が困難な場合には各々の表情や態度、行動を材料にしなが、二者択一の言葉かけや職員の様々な意見、センター方式の活用で人物像をつくりあげながら本人の希望の純度を高めている。把握した情報は記録に残し、職員間で共有し、介護計画などに反映している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々ケアの中、職員が入居者の気づきを記録として残すことで介護計画に活かしている。6カ月に1回家族の意見を聞きながら、ケアマネジャー、入居者、職員を交えて協議をしてサービス計画を作成している。介護計画を家族に分かりやすく説明し、一緒に内容に関する話し合いをしているので、家族からは安心と言う意見が多い。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画会議を開催しケアマネジャー、職員、パート職員で、入居者に即した介護計画の見直しを行っている。退院後は介護計画を見直すことでADL(日常生活動作)に配慮した計画になる。短期、長期期間と状況に応じて変更は可能で、家族には見直した介護計画を説明し、遠方の家族には郵送して意見をいただいている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族から併設の特別養護老人ホーム入所の相談があったり、栄養に関しては管理栄養士に相談ができる。多種の専門職が在籍していることで要望に応じる支援体制が整っている。歯科受診を希望される入居者には、職員が通院介助支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	週1回かかりつけ医による往診を受けている。その他に月2回、併設特別養護老人ホーム嘱託医の往診も受けている。家族の協力を得ながら受診支援を行い、遠方のかかりつけ医通院時には、家族に情報を提供し受診後報告をもらい情報を共有している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	医療が必要になった場合は医療機関にお願いしているが、体力低下で寝たきり状態の場合はホームで可能な限り対応していく方針である。重度化した場合の対応に係わる指針はないが、研修会に参加することで前向きに検討している。重度化、看取りに関しては入所の時に家族に説明を行い、家族から話があった時には相談にのっている。終末期の看取りは実施していない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人情報や書類はシュレッダーにて破棄している。入居者の名前を呼ぶ時に「ちゃん」との呼び方は失礼にあたると受け止め、気をつけている。尿失禁した入居者には、他の方に気づかれないように声かけを行っている。併設の施設に排泄委員会が設置されグループホームから1名委員として勉強会に参加し情報を共有をすることでケアの質の向上に繋げている。職員が居室に入室する時は、必ず声かけをして入居者に許可を得ている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	大まかな1日の流れはあるが、本人の行きたい所、やりたいことは制限しない。食事、就寝、入浴時間などは一人ひとりのペースを大切に、体調や気分を考え、希望に添って支援している。日常会話の中から気持ちを汲み取り、外出や買い物などは個々に対応し、音楽療法は皆で楽しんだりと個別、全体対応を上手く組み合わせている。理念にある『その人らしさやペースに合わせて暮らしましょう』の実現に向け支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を共に考え一緒に食事の準備を楽しんでいる。味見、食器拭き、片付けなど入居者の力を発揮してもらっている。誕生会にはお店に仕出しを頼み、誕生日ケーキを用意したり、パン作りや、ピザを焼いたり手作りを楽んでいる。10月は苑庭で炭をおこし秋刀魚を焼いて秋の味覚を楽しむ予定である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は毎日だが、入居者の希望を取り入れながら週2～3回の入浴になる。バスボードや、浴槽内イスを使用することで安心、安全に心がけての入浴になる。入浴の順番は固定化しないで希望を聞いて日々対応している。入浴を嫌がる入居者にはタイミングを見ながら声かけに配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の趣味を活かした得意分野の生け花、刺繍、裁縫など作品が玄関や壁に飾ってある。町内中央公民館で開催される作品展に入居者の手作り作品が展示されている。ヤクルトの訪問販売員が配達時に季節の情報や色々な話題を運んでくれることや、週1回の近隣の園芸店に職員と出かけることも入居者の楽しみの一つになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイサービスセンターでボランティアによる太鼓演奏を聞いたり、苑庭の散歩を楽しんだりしている。入居者が生家に行ってみたいと言葉に出されるが、遠距離のため実現は難しい。スーパーへ買い物、ドライブ、喫茶店、大口町資料館、明治村、おちょぼ稲荷など、入居者に楽しんでもらえる外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していない。入居者は玄関の花に水遣りをしたり、新聞を取りに行ったり、苑庭でお茶を楽しんだりしている。居室は他の入居者が自分の部屋と間違えて入ってこられるのを不快に思われる場合は施錠することもある。エスケープされる入居者には声かけをして本人が疲れたところで一緒に帰るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設長が防火管理者で年間計画を立て、昼、夜間を想定しての訓練を実施している。運営推進会議、地域の消防団に災害時協力のお願いの話をしている。災害時の備蓄品は2~3日分用意、水、カンパン、おかゆのレトルトパック、スープ、固形燃料など準備され、各居室には防災頭巾が用意されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録として残している。訪問時、昼の食事は10種類以上の食材をバランスよく使用し、食べる量や形状に配慮した食事が提供され、健康面への配慮が感じられた。併設施設の管理栄養士から旬の食材を取り入れる献立アドバイスを受けてたり、毎朝フルーツを提供したり、ヤクルトを取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や庭には職員家族が植えた季節の花がきれいに咲いている。時期に応じて正月には門松、クリスマスにはツリーが飾られる。居室が分かるように可愛いぬいぐるみが目印になっている。廊下にはソファが置いてあり、入居者が一人になれる配慮がしてある。ホーム横の池には鴨のつがい安心して泳いでいる姿が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具はスペースが許す限り持ち込みを家族にお願いしている。居室にはテレビ、タンス、家族との思い出の写真、手作りの人形を飾り居心地のよい工夫がしてある。毎朝窓を開放し換気に気をつけ、温湿度計で室温をコントロールしている。冬季は空気の乾燥を防ぐ加湿器を使用し、湿度にも配慮している。ベランダで鉢植えを育てている入居者もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。